

平成30年度「全国学力・学習状況調査」 — 鳴門市の結果の概要と対応策 —

鳴門市教育委員会

1 はじめに

鳴門市教育委員会より、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習支援や生活習慣の改善などを、学校との協力のもとに図っていただくため、本市の小中学生全般にかかる文部科学省実施の全国学力・学習状況調査の結果の概要をご報告いたします。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定の学年の学力・学習状況調査であり、調査結果は本市の児童生徒の学力全体を評価したものではありません。

2 現状・課題（平均正答率より）

(1) 小学校 実施日 平成30年4月17日（火）
実施学校数 13校 調査児童数 6年生408人(※理科399人)

各テスト結果の状況

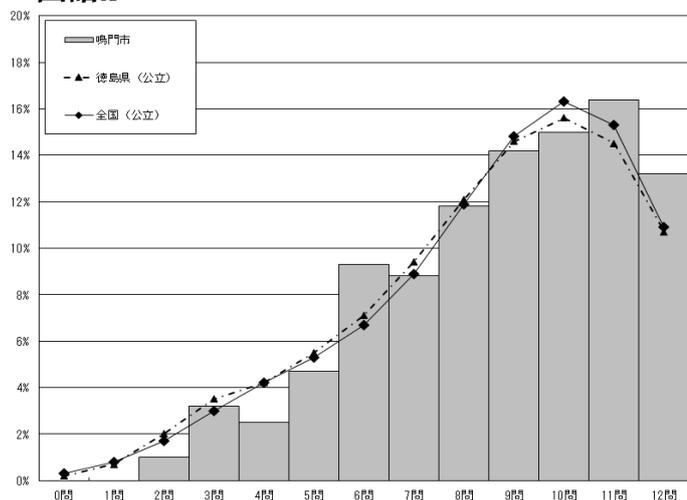
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国平均正答率	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
徳島県平均正答率	70.0	54.0	61.0	50.0	59.0
鳴門市平均正答率	73.0	55.0	63.0	52.0	60.0
本市－全国	2.3	0.3	-0.5	0.5	-0.3
本市－県	3.0	1.0	2.0	2.0	1.0
全国平均を上回った領域等	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	「書くこと」「読むこと」	「量と測定」「図形」	「数と計算」「量と測定」「図形」	「地球」
本年度の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国語A、国語B、及び算数Bで全国平均、県平均を上回っています。 ・算数A及び理科では、県平均は上回っていますが、全国平均を下回っています。 ・ほとんどの設問において、無解答率が全国平均や県平均を下回っています。 ・国語では、話す・聞く能力の活用的な面（国語B）において課題が見られます。 ・算数では、数量や図形についての技量の定着に課題が見られます。 ・理科では、観察・実験の技能に課題が見られます。 				

昨年度との比較

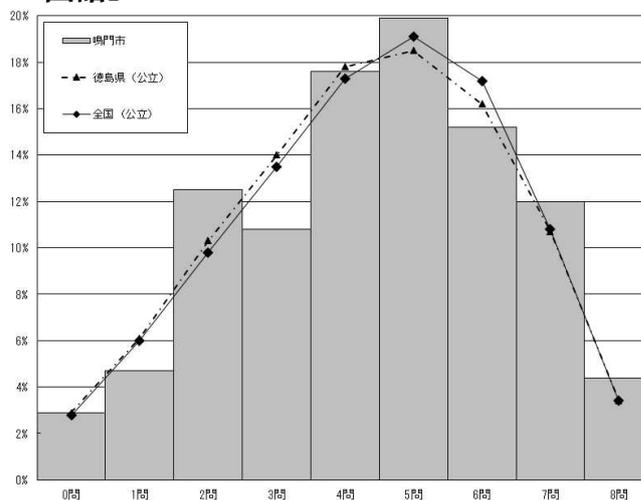
- ・国語の話す・聞く能力の活用的な面に課題はあるものの、昨年より向上しています。
- ・算数は、ほぼすべての領域で昨年を下回っています。
- ・正答率の低い児童の割合が、昨年度より若干高くなっています。

小学校正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）

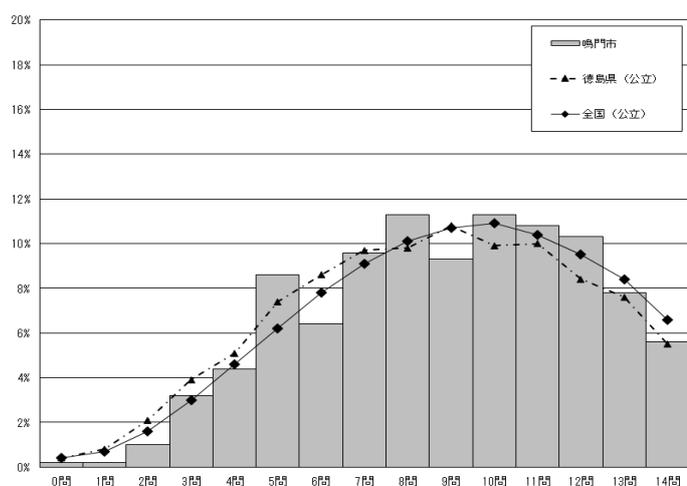
国語A



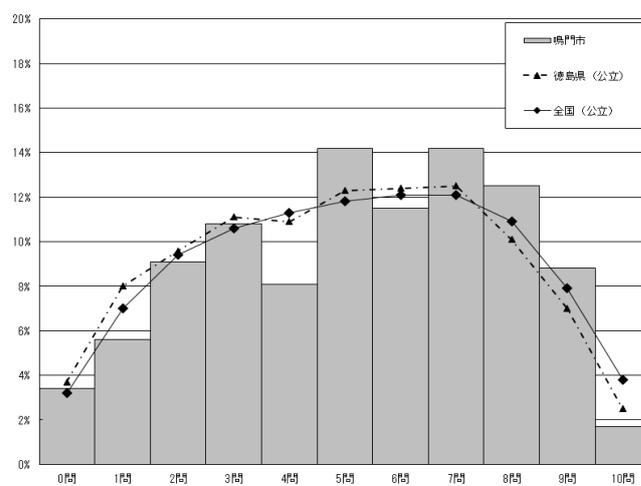
国語B



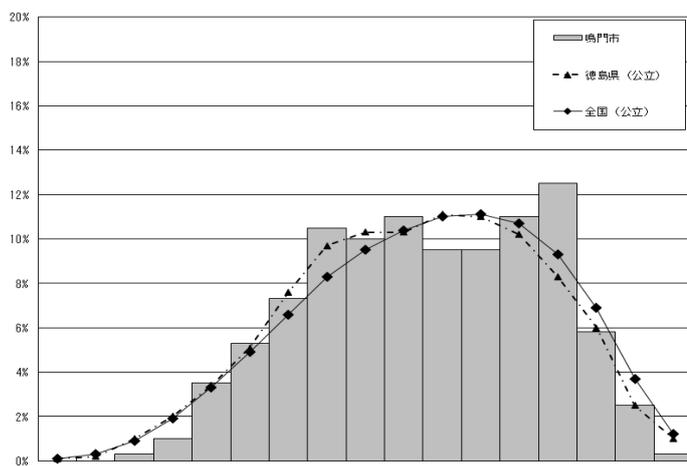
算数A



算数B



理科



各テストにおける結果の概要

【国語A】

12問中正解した児童数が最も多かったのは、全国や徳島県は10問でしたが、本市は11問(正答率16.4%)でした。

10問正答率 **鳴門市15.0%** 全国16.3% 徳島県15.6%

全問正解13.2%，正解3問以下は4.2%でした。

◇「漢字を文の中で正しく使うこと」や「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと」はよくできていました。

◆「相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと」に不得意な傾向が見られました。

【国語B】

8問中正解した児童数が最も多かったのは、全国や徳島県と同じ5問でした。

5問正答率 **鳴門市19.9%** 全国19.1% 徳島県18.5%

全問正解は4.4%，正解3問以下は30.9%でした。

◇「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと」「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと」はよくできていました。

◆「計画的に話し合うために、司会の役割について捉えること」「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと」「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えること」に不得意な傾向が見られました。

【算数A】

14問中正解した児童数が最も多かったのは、全国と同じ10問(本市は、8問正解も同率の11.3%)でした。

10問正答率 **鳴門市11.3%** 全国10.9% 徳島県9.9%

全問正解は5.6%，正解3問以下は4.6%でした。

◇「円周率の意味について理解していること」「 180° の角の大きさを理解していること」はよくできていました。

◆「除法で表すことができる二つの数量の関係を理解すること」「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すこと」に不得意な傾向が見られました。

【算数B】

10問中正解した児童数が最も多かったのは、全国(全国は、6問正解も同率の12.1%)や徳島県と同じ7問でした。

7問正答率 **鳴門市14.2%** 全国12.1% 徳島県12.5%

全問正解は1.7%，正解3問以下は28.9%でした。

◇「示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述すること」「折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断すること」はよくできていました。

- ◆「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断すること」に不得意な傾向が見られました。

【理科】

16問中正解した児童数が最も多かったのは、本市は13問、全国は11問、徳島県は10問でした。

13問正答率 鳴門市12.5% 全国9.3% 徳島県8.3%

全問正解は0.3%、正解3問以下は1.3%でした。

◇「堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解すること」「土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想すること」はよくできていました。

◆「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用すること」「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること」に不得意な傾向が見られました。

改善のポイント

【国語】

- 国語科を中心に、すべての学習の中で話し合い活動を重視し、他者とかかわりながら自分の考えを明確にし表現する授業を展開していきます。
- 学校生活の中で、子どもが主体となって話し合う機会をたくさんつくり、司会や副司会、書記等の経験を積み重ねて、話し合いの仕方を身に付けるようにします。
- 文中の語句の役割や意味のつながりに気をつけて、文章を読み取る力をつけていきます。
- 国語で学習した敬語について、実際の生活場面の中で意識的に使うことにより、敬語の使い方を身に付けることができるようにします。

【算数】

- 補充学習や家庭学習で、計算技能の習熟を図ります。
- 操作的な活動を工夫するなどして、小数のしくみについての理解を深めます。
- 算数以外の教科の中でも、グラフを活用したり、読み取ったりする機会を効果的に作ります。
- 学習形態の工夫や補充的な学習、発展的な学習を生かして、個に応じた学びを充実していきます。

【理科】

- 人の体の仕組みについて、視覚的に理解できる教材を工夫するなど、分かりやすい授業づくりに努めます。
- 実験の学習についての手順を明確にし、結果のまとめや考察の時間をしっかりと確保して、科学的な思考力を身に付けることができるようにします。

(2) 中学校 実施日 平成30年4月17日 (火)

実施学校数 5校

調査生徒数 3年生

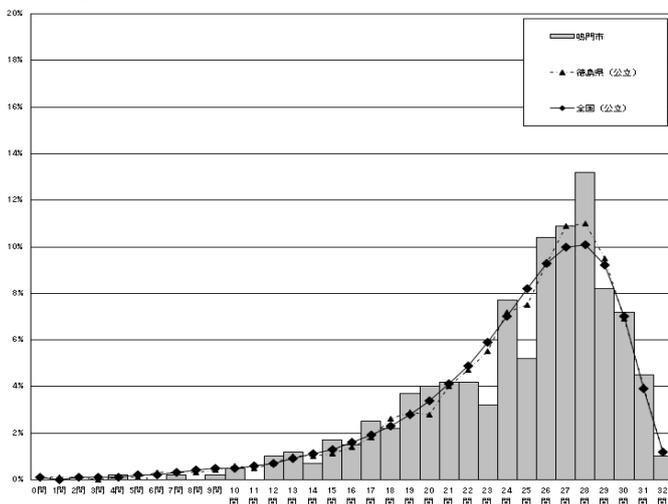
国A・理 402人, 国B 403人, 数A・数B 404人

各テスト結果の状況

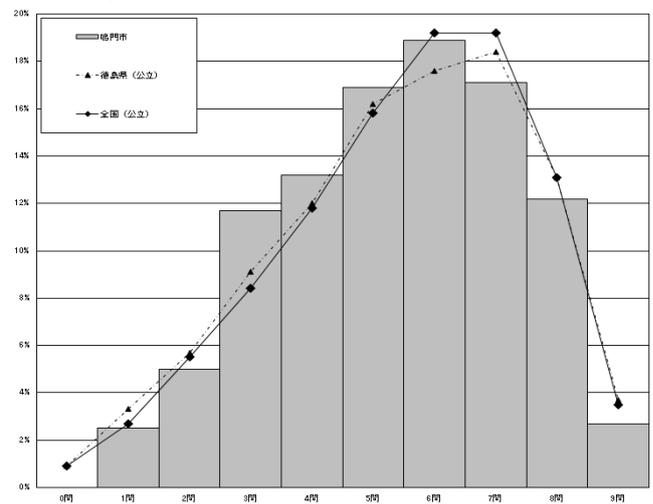
	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国平均正答率	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
徳島県平均正答率	77.0	60.0	69.0	47.0	67.0
鳴門市平均正答率	77.0	60.0	67.0	45.0	65.0
本市ー全国	0.9	-1.2	0.9	-1.9	-1.1
本市ー県	0.0	0.0	-2.0	-2.0	-2.0
全国平均を上回った領域	「書くこと」 「読むこと」 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	「話すこと・聞くこと」 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	「数と式」		「生物的領域」 「地学的領域」
本年度の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国語A, 数学Aにおいて, 全国平均を上回っていますが, 国語B, 数学B, 理科では全国平均を下回っています。 ・数学A, 数学B, 理科で県平均を下回っています。 ・国語では, 話す・聞く能力の知識的な面(国語A)において課題が見られます。 ・理科では, 第1分野(物理・化学)より第2分野(生物・地学)の正答率が高くなっています。また, 自然現象への関心・意欲・態度に課題が見られます。 				
昨年度との比較	<ul style="list-style-type: none"> ・数学では, すべての領域で, 正答率が低下しています。 ・正答率の低い生徒の割合が, 昨年度より高くなっています。 				

中学校正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

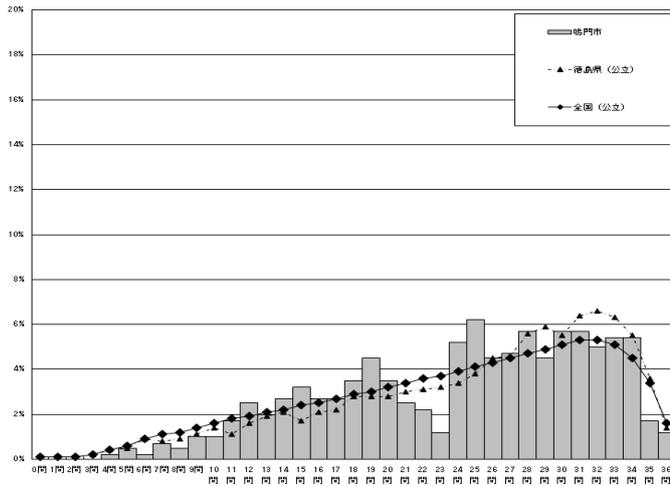
国語A



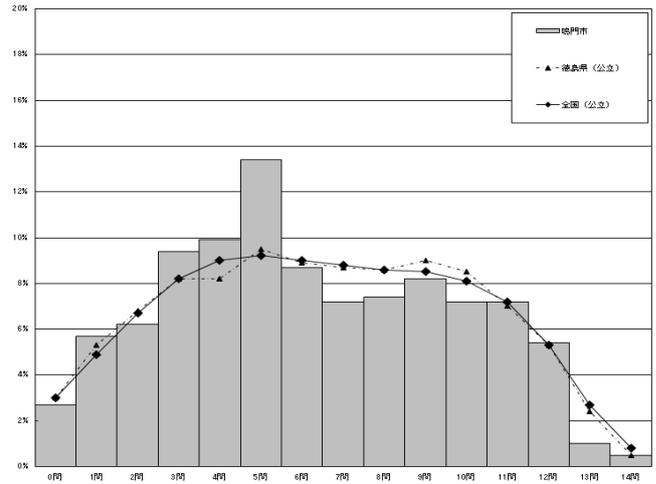
国語B



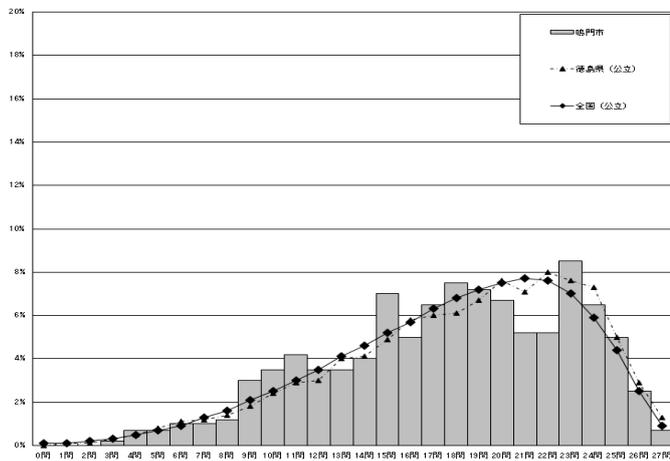
数学A



数学B



理科



各テストにおける結果の概要

【国語A】

32問中正解した生徒数が最も多かったのは、全国や徳島県と同じ28問でした。

28問正答率 鳴門市13.2% 全国10.1% 徳島県11.0%

全問正解は1.0%，正解3問以下は0%でした。

- ◇「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと」「文脈に即して漢字を正しく書くこと」「文脈の中における語句の意味を理解すること」は比較的よくできていました。
- ◆「古典に表れたものの見方や考え方を理解すること」「話合いの話題や方向を捉えて的確に話すこと」「話合いの話題や方向を捉えること」に不得意な傾向が見られました。

【国語B】

9問中正解した生徒数が最も多かったのは、本市は全国(全国は、7問正解も同率の19.2%)と同じ6問でしたが、徳島県は7問でした。

6問正答率 鳴門市18.9% 全国19.2% 徳島県18.4%

全問正解は2.7%，正解3問以下は19.2%でした。

- ◇「質問の意図を捉えること」は比較的よくできていました。

- ◆「文章の構成や展開について自分の考えをもつこと」「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること」に不得意な傾向が見られました。

【数学A】

36問中正解した生徒数が最も多かったのは、本市は25問でしたが、全国は31問、32問、徳島県は32問でした。

32問正答率 鳴門市5.0% 全国5.3% 徳島県6.6%

全問正解は1.2%，正解3問以下は0%でした。

- ◇「数量の大小関係を不等式に表すこと」「絶対値の意味を理解すること」「具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形すること」「文字式に数を代入して式の値を求めること」「一次関数 $y = ax + b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解すること」「着目する必要がある数量を見出し、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくること」はよくできていました。

- ◆「多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解すること」「座標平面上に点の位置を示すこと」「見取図、投影図から空間図形を読み取ること」に不得意な傾向が見られました。

【数学B】

14問中正解した生徒数が最も多かったのは、全国や徳島県と同じ5問でした。

5問正答率 鳴門市13.4% 全国9.2% 徳島県9.5%

全問正解は0.5%，正解3問以下は24.0%でした。

- ◇「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」は、比較的よくできていました。
- ◆「与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えること」「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈すること」「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明すること」「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること」に不得意な傾向が見られました。

【理科】

27問中正解した生徒数が最も多かったのは、本市は23問でしたが、全国は21問、徳島県は22問でした。

23問正答率 鳴門市8.5% 全国7.0% 徳島県7.6%

全問正解は0.7%，正解3問以下は0.2%でした。

- ◇「神経系の働きについての知識を身に付けること」「太平洋高気圧の特徴についての知識を身に付けること」「無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用すること」「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘すること」はよくできていました。

- ◆「反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画すること」「シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘すること」「ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘すること」「テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明すること」に不得意な傾向が見られました。

改善のポイント

【国語】

- 教材や指導法を工夫し、「国語学習は楽しい」と感じる授業を推進します。
- 書く能力、読む能力を育成するために、ワークシートやホワイトボードを活用し、書くことと読むことの関連を図る授業を展開していきます。
- 国語科を中心に、あらゆる教科の中で話し合い活動を重視し、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す力をつけていきます。
- 様々な文章を書く機会を設定します。
- 読書活動を推進するとともに、場面の様子や登場人物の言動などに留意して、文章を読み取る学習を展開していきます。

【数学】

- 授業の導入段階で、学習問題の提示の仕方等を工夫し、生徒が意欲を持って取り組む授業を展開していきます。
- 生徒の実態に合わせて、授業のスピードや難易度を調整し、分かる授業を展開していきます。
- 授業中も可能な限り演習の時間を設定するなど、反復練習することで基礎的な技能の定着を図るようにします。
- 「課題に対する自分の考えを持ち、言葉や文章で表現し説明する活動」を積極的に取り入れ、数学的な見方や考え方を伸ばす授業を展開していきます。
- 考えたことをまとめたり表現したりする際に、ノートを使う指導を継続します。
- 実生活に即した教材を用い、生徒の興味を喚起しながら、資料を活用する力を高めしていきます。

【理科】

- 観察、実験、野外観察などの体験的な学習活動の充実を図り、生徒が興味をもって主体的に取り組めるようにしていきます。
- 理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ります。
- 理科の授業の中で、問題を見だし観察、実験を計画する学習活動、観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などを重視して取り組みます。

3 児童・生徒，学校への質問紙から見える改善のポイント

児童・生徒質問紙調査結果において全国平均を上回っている生活状況例

質 問		全国 (%)	本年 (%)	市一 国 (%)
小 学 校	先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	42.5	48.0	5.5
	将来の夢や目標を持っていますか	68.2	71.1	2.9
	いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか	85.9	90.2	4.3
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	74.2	77.7	3.5
	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において，教科書を使いながら学習していますか	37.5	53.9	16.4
	授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域の人とかかわったりする機会があったと思いますか	40.1	52.9	12.8
	地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり，一緒に遊んだりすることがあります	18.1	20.8	2.7
中 学 校	自分には，よいところがあると思いますか	33.7	38.3	4.6
	先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	32.5	41.5	9.0
	将来の夢や目標を持っていますか	45.3	51.0	5.7
	学校の規則を守っていますか	63.4	65.7	2.3
	いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか	80.7	85.6	4.9
	家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか	16.6	19.2	2.6
	家で，学校の宿題をしていますか	68.5	72.6	4.1

児童・生徒質問紙調査結果において全国平均を下回っている生活状況例

質 問		全国 (%)	本市 (%)	市一 国 (%)
小 学 校	自分には，よいところがあると思いますか	41.2	39.2	-2.0
	学校のきまりを守っていますか	43.8	41.7	-2.1
	朝食を毎日食べていますか	84.8	79.4	-5.4
	毎日，同じくらいの時刻に寝てますか	41.4	39.0	-2.4
	今住んでいる地域の行事に参加していますか	35.9	33.6	-2.3
	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか	57.3	49.5	-7.8
中 学 校	家で学校の授業の予習・復習をしていますか	18.2	13.9	-4.3
	授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域の人とかかわったりする機会があったと思いますか	31.6	28.4	-3.2
	今住んでいる地域の行事に参加していますか	18.6	10.2	-8.4
	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	20.0	16.4	-3.6
	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	51.8	39.8	-12.0
	新聞を読んでいますか	4.9	2.5	-2.4

児童・生徒質問紙クロス集計からみた平均正答率の状況

小学校例（太字は最高正答率）

(9) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)				
			国語A	国語B	算数A	算数B	理科
している	239	59.0	74.4	57.5	64.5	53.8	61.1
どちらかといえば、している	128	31.6	71.5	53.4	62.4	52.9	59.0
あまりしていない	25	6.2	67.7	53.1	59.4	45.6	56.0
全くしていない	13	3.2	64.7	39.4	58.2	38.5	55.2

(12) 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)				
			国語A	国語B	算数A	算数B	理科
している	106	26.2	74.3	58.0	66.0	54.4	61.2
どちらかといえば、している	163	40.2	75.6	57.5	64.7	56.1	61.5
あまりしていない	104	25.7	68.4	50.4	57.2	45.5	55.9
全くしていない	32	7.9	68.0	51.6	67.0	50.3	60.0

(25) 新聞を読んでいますか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)				
			国語A	国語B	算数A	算数B	理科
毎日読んでいる	35	8.6	85.0	67.9	73.3	63.4	67.5
週に1～3回程度読んでいる	59	14.6	79.0	54.4	66.8	57.5	62.6
月に1～3回程度読んでいる	95	23.5	72.3	57.5	63.5	57.2	62.0
ほとんど、または、全く読まない	214	52.8	69.4	52.6	60.7	47.3	57.1

中学校例（太字は最高正答率）

(9) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科
している	221	56.5	76.6	59.9	68.8	45.0	66.4
どちらかといえば、している	139	35.5	78.0	59.9	66.6	44.2	64.7
あまりしていない	23	5.9	73.7	57.1	60.3	40.3	65.7
全くしていない	8	2.0	77.7	62.5	61.8	48.2	53.2

(12) 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)				
			国語A	国語B	算数A	算数B	理科
している	56	14.3	76.5	59.3	69.6	47.4	67.0
どちらかといえば、している	162	41.4	79.1	61.8	69.3	46.3	68.3
あまりしていない	135	34.5	74.7	57.4	64.5	41.5	62.4
全くしていない	36	9.2	76.0	60.8	66.4	43.1	63.1

(25) 新聞を読んでいますか

選択肢	調査者数	割合 (%)	平均正答率(%)				
			国語A	国語B	算数A	算数B	理科
毎日読んでいる	9	2.3	68.4	56.8	63.3	34.1	61.7
週に1～3回程度読んでいる	27	6.9	79.3	60.3	73.3	51.6	70.6
月に1～3回程度読んでいる	90	23.0	78.5	61.3	68.6	48.2	67.8
ほとんど、または、全く読まない	265	67.8	76.5	59.4	66.5	42.9	64.3

クロス集計で選択肢ごとの平均正答率を比較をしていますが、小学校・中学校とも調査者数が多くないため、ごく少数の回答結果に大きく影響されているものが少なくありません。このことを踏まえた上で結果を見ても、小学校、中学校とも望ましい状況の者が、高い正答率となっている傾向にあります。

例に挙げた以外にも、いくつかの改善を要する生活状況がありました。また学校質問紙からもいくつかの改善を要する学習指導状況がありました。

それらを基に、生活と指導方法の2面から、見直すべきポイントを次のようにまとめました。

1 生活の見直しポイント

- ・地域行事やボランティア活動等への参加を推奨し、健全な心を育成します。
- ・学校と保護者の連携に努め、学習時間の確保と学習習慣の確立、主体的な読書習慣の定着を図ります。
- ・各校で作成している「家庭学習の手引き」の改善を図りながら、予習・復習を中心とした効果的な家庭学習の仕方を指導します。

2 指導方法の見直しポイント

(1) 指導者の学力への危機意識啓発と指導力向上や授業改善

- ・学習のねらいを明示し、分かる楽しさが味わえる授業を展開します。
- ・「板書」「ノート」「発問」を密接に関連させ、知識を構造化して捉えることができる指導を推進します。
- ・学力向上実行プランの進捗状況を定期的にチェックし、計画を常に意識できるようにします。

- ・計画的、継続的に反復学習を行い、基礎的・基本的内容の定着を図ります。
- ・発展的な問題に取り組むことで、児童・生徒の学習意欲を高めるとともに、教科や領域特有の解き方、考え方を学ぶことができるようにします。
- ・一人ひとりの確実な学力向上をめざし、T.T（ティームティーチング 複数の教員による指導）、個別指導、補充学習の充実を図ります。

（２）魅力ある学習環境整備

- ・教師一人ひとりの学級経営力を向上させ、温かい人間関係の中で、安心して学習に取り組むことができるようにします。
- ・正しい言語環境や学習規律を確立し、楽しく意欲的に学ぶ雰囲気を作ります。
- ・電子黒板をはじめ、教材や教具を効果的に活用し、魅力ある学習を推進します。
- ・授業時数を確保し、ゆとりある教育課程を実施します。

4 今後の取組方針

学校と市教育委員会では次のことを積極的に推進します。

- 鳴門市の子どもたちの将来を見据え、社会を生き抜くために必要な学力をつけるために、学校、家庭、市教育委員会が一体となった取組を推進します。
- 家庭との連携のもと、学力向上の礎となる基本的生活習慣の確立を図ります。
- 全国学力・学習状況調査の調査結果を各校において分析し、自校の課題を明確にして、学力向上実行プランに反映できるようにします。
- 鳴門市学力向上推進委員会を継続して開催し、各学校・幼稚園が連携して情報収集や調査結果の分析・検証を行うとともに、教師の授業力向上や若手教師の育成をめざす取組を進めていきます。
- 各中学校区において小中連携を推進し、「学びの継続」を図ります。
- 「学校評価・鳴門プラン」を活用し、PDCAサイクルを生かした学力向上を図ります。

家庭や地域では次のような取組の推進をお願いします。

- 早寝・早起き・朝ご飯の習慣の定着を図りましょう。
- 調和の取れた食事を心がけましょう。
- 十分に睡眠をとることができるようにしましょう。
- スマートフォンやゲームの使用時間を制限し、学習や運動時間の確保を図りましょう。
- 学校行事等に積極的に参加するなど、学校との連携を図りましょう。
- 地域や社会のニュースについて話す機会を増やしましょう。
- 地域行事やボランティア活動への参加を促しましょう。
- 子どもとよく会話し、学校や家庭での生活状況の把握に努めましょう。